

# 専大時代の経験が「今」を作ってくれた



▲「目標を見果てぬ夢にしない」左ストレートが得意の山中慎介さん＝東京・帝拳ジムで

# 一三二一専修

毎月1回15日発行 (定価一部90円) 発行所 専修大学広報課 101-8425 東京都千代田区 1-3-8 田代町3丁目 電話 03-3265-5819(直)

## 主なニュース

- 「小繋事件」をテーマに法学研究所シンポジウム／今村法律研究室が冤罪フォーラム／社会科学研究所／商学研究所……
- ③ 専修大学が「かわさき環境ショーウィンドウ大賞」受賞……
- ② 【受験生特集】 国際交流／LJ研究室／学生生活・課外・サークル活動／ゼミ・プロジェクト活動……
- ④ ⑧ 経営・山崎ゼミが社会人基礎力育成グランプリ地区大会で準優秀賞／庄子ゼミ「石巻人」創刊……
- ⑨



創業者4人の青春物語 DVD絶賛販売中(購置会他)

平成24年度卒業式・学位記授与式のご案内

日時：3月22日(金)午前10時30分開式

会場：日本武道館(千代田区北の丸公園)

※詳細は2月22日(金)の卒業発表時の掲示、ホームページでご確認ください。

次号は3月27日(水)発行予定です

## WBCバンタム級王者 山中慎介さんに聞く

専大初のボクシング世界チャンピオン、山中慎介さん(平17商)は、実力、人気とも最高潮だ。2度の防衛でいずれも元世界王者の挑戦を退けた。プロ17勝(12KO)2分。デビュー以来負け知らずの世界王者の強さの原動力は、「思うような結果を残せなかった」専大時代にある。「もっと強くなって世界に認められる存在になりたい」。4月に予定される3度目の防衛戦の前に、猛練習に励む山中さんに聞いた。



▲念願の世界チャンピオンになった、クリスチャン・エスキベル(左・メキシコ)との激戦。東京・代々木体育館で11年11月、山中さん提供

## 4月に3度目の防衛戦

### 「世界に認められたい」

「国体優勝」という戦績を引っさげ、専大 4年次で入学。ボクシング部で、大学リーグ戦出場へ練習に汗を流した。住まいは生田第一体育寮。「食堂のおばちゃんや事務の方々に温かく支えられました。専大最後の年でした。ボクシング部員の

「これを最後にしたくない。プロになって世界チャンピオンになるぞ」。の練習が実を結んだのだと思えます。KOが増える。と力みが消え、精神的な自信につながる。強くなると性格に優しさが備わった。絶え間ないトレーニング

やまなか・しんすけ 82年10月11日生まれ。南京都高3年時にインターハイで少年フェザー級準優勝、国体で同優勝。専大では主将を務め、アマ34勝13敗。06年1月

## シンポ「沖繩の声を聞く」開催

### 沖繩と全国紙の記者が報道格差を報告

オスプレイ強行配備を「健全な学術部教授がコーディネート」に、沖繩の基地を「構造的差別」として報告した。アンのジャーナリストが沖繩返還から40年。山田

長、松元剛琉球新報政治部長、大治朋子毎日新聞外部編集委員。

### 「民主主義が適用されない地」「日常」を全国に伝える必要

1月22日、シンポジウム「沖繩の声を聞く」(専修大学、琉球新報社、毎日新聞社主催)が神田キャンパスで開かれ、学生や市民ら約150人が参加した。パネリス

松元氏は、鳩山由紀夫元首相による「抑止力は方便」発言などを挙げ、沖繩を組み敷こうとする官僚の意識を語った。さらに、沖繩国際大学米軍ヘリ墜落事故(2004年)の報道映像を紹介。現地メディアに対する米軍の厳戒な報道規制にふれ、「住民に背を向け、日米地位協定に違反する米軍の行為を追認した政府の姿勢こそ基地の存在に根づくもの」と訴えた。大治氏は11年4月から

り墜落という大事故です。軍機の騒音の中で生活する。道格差を検証した。

「衆院選で争点とならなかった沖繩」と題する研究を発表。昨年末の選挙期間中、本土と沖繩の新聞各紙が沖繩をどう伝えたかを比較調査し、報道格差を検証した。



▲パネルディスカッションで。琉球新報の紙面を手にする山田教授



▲山田ゼミ生たちが研究発表。シンポジウム「沖繩の声を聞く」(専修大学、琉球新報社、毎日新聞社主催)が神田キャンパスで開かれ、学生や市民ら約150人が参加した。パネリス

と報告した。松元氏は、鳩山由紀夫元首相による「抑止力は方便」発言などを挙げ、沖繩を組み敷こうとする官僚の意識を語った。さらに、沖繩国際大学米軍ヘリ墜落事故(2004年)の報道映像を紹介。現地メディアに対する米軍の厳戒な報道規制にふれ、「住民に背を向け、日米地位協定に違反する米軍の行為を追認した政府の姿勢こそ基地の存在に根づくもの」と訴えた。大治氏は11年4月から

り墜落という大事故です。軍機の騒音の中で生活する。道格差を検証した。



## 海外NGO参加学生の写真展

「NGO論」は途上国の人々の立場に立った効果的な国際協力の在り方を考える専門科目。スタディツアーには補助が出る。

## 思い出をカメラにこめて

メキシコ、インド、ブータン、タンザニア……。昨夏、海外でNGO活動中に撮影した学生の写真展が1月16日から29日まで、生田キャンパス9号館アトリウムで開催された。

スタディツアーに参加した学生12人の21作品が展示された。現地の人々のさまざまな表情を見事にとらえている。



▲作品をバックに狐崎教授と撮影した学生のみなさん